

一条

ichijyo

看護管理体制が充実しました

病院長 森 崇英

年来の懸案であった10:1看護体制は、昨年(平成20年)6月にスタートし、患者様へより手厚い看護を提供できるようになりました。退院時アンケート調査結果でも高評価を頂いており、大変喜ばしいことと存じます。引き続き質の高い看護と介護を実行するために、看護部組織の充実を目指し、各

部署の師長復活計画を進めるため、それぞれの責任者の教育を進めて参りました。

その結果、本年(平成21年)4月に、外来、一般病棟、介護療養病棟に師長を配置し、看護管理体制が充実致しました。

そこで今回は3人の師長に、現場の特徴と抱負を語ってまいります。



『理念の基に』

一般病棟看護師長
西村しのぶ

平成20年度看護部組織強化の一環として看護師長制を復活されたことに伴い、私は同年4月1日より一般病棟師長を命ぜられ就任させて頂きました。

私は愛寿会同仁病院に就職して20年程になりますが、始めの10年は病棟勤務、その後外来勤務を9年間経験させて頂きました。

特に外来勤務に命ぜられた時は、看護師になってはじめての外来勤務であると同時に師長不在の中での主任業務でしたので、戸惑いと不安の連続で周囲の方々へずいぶんご迷惑をおかけしましたが、ご指導・ご協力を頂き多くのことを学び、経験させて頂きました。そして、今回9年ぶりに師長として

病棟勤務を仰せ付けられました。日進月歩の医療業界の中で、私が外来勤務の間に病棟も随分変わったことだろうと不安を覚えながらのことでした。

また同時期に当たる6月には10:1看護が認可され当年度の看護部目標に「業務改善」が上がっていたことを機に固定チームナーシングを開始いたしました。

それまでは、一般的なチームナーシングと機能別看護、受け持ち制を混合した形態でした。各々の看護師は、自分の受け持ち患者さまに対し計画を立案し実践しますが、20名近くのスタッフが3交替を行っていますから患者さまにとっては毎日あらゆる看護師が入れ替わり立ち替わりやってきますので、「誰に何を言っているかわからない。」という不安な思いのアンケートもいただきました。